

■PR メディア掲載

あしぎん「経済月報 1号」(2023年12月31日発行)に掲載されました。



リンク先

<https://www.ashigin-ri.co.jp/news/170?back=on>

トピックインタビュー「さすてなぶる」にて当社設立からの歩み、国際規格準拠のトランス製品の製造からカーボンニュートラルに向けた太陽光発電向けのトランスシステムなど、SGDsコミットメントの取り組みをご紹介します。

TOP INTERVIEW

さすてなぶる

鶴田電機株式会社

代表取締役社長 鶴田 潤 氏

1973年の創業以来、電気を安全に使用するために用途に応じて電圧を変換するトランスを作り続けて50年を迎えた。自宅の最先で低圧トランスの製造を始め、顧客の要望に応えるうちに、耐雷トランスなどの特殊なトランスまで手がけるようになった。

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故を機に再生可能エネルギーの普及に資するトランスの開発に力を入れている。

● トランスとの出会い

創業時のお話をお聞かせください。

鶴田社長 創業者である会長(義父)鶴田長盛氏、以下「長盛」は、1934年に熊本で生まれ、幼少期に家族で浦州に渡り就職先で毎週、幼少期に東京から東京電機大学工学部電気工学科に進学した。6人兄弟の次男で、配電機メーカーで働きながら大学に進んでいたが、経済的理由で大学を中退し郡内の株式会社徳工業所に入社した。鉄道会社や電力会社向けに付加価値の高いトランス(計器用変成器および変圧器)を製造している会社で、長盛はそのエンジニアとして働き始めた。

長盛は、1963年青少年育成コンサルタントセミナー(日本経済連合会(現在の日本経済団体連合会)主催)に夜間に参加した。セミナーの講師陣は財界、官庁の著名人で、特に人材育成について多くを学んだそうだ。

セミナーが終了する1964年、茨城県旗高郡

鹿和町(現在の古河市)に造幣産業者(現在の経済産業省)が日商中小企業協会のためのモデル工場を建設され、同社はその間に工場を設立し、長盛は初代工場長を任された。

工場が軌道に乗り始めた頃、同社に依頼が来た。同社の主力製品であった高圧トランスの製造に大手企業が参入することが分かった。資本力のある大手が参入すれば、たちまち仕事を奪われる可能性がある。長盛は、新規事業として低圧トランスを作ろうと同社の社長に提案したが、付加価値の低いトランスの製造は受け入れられず実現できなかった。自身の思いを諦められなかった長盛は、茨城工場の後継者を育成した後、港工業所を38歳で退職した。

長盛は、1973年4月に茨城県古河市の自宅の裏に事務所を建て、個人事業として鶴田電機を創業し、一筋に造工業所を退職した仲間を工場長に迎え、低圧トランスの製造を開始した。翌年、長盛は鶴田電機株式会社を設立、代表取締役社長に就任した。設立当初から会社

の基盤となる人事労務、会計、許認可等の手続きは誰やかにできたようだ。港工業所勤務時に受講した青少年育成コンサルタントセミナーで、必要なノウハウを得ていたからだ。

当時は第一次オイルショックによる影響の真っ只中にあり、すぐに利益を上げることは難しかったようだ。しかし、数年後にアーケードゲームが流行りだし、栃木県小山市にあったメーカーが製造する人気ゲーム機に搭載するトランスを当社が納める機会を得た。トランスの製造が途切れなくなるくらいに注文が殺到し、鹿和町の山林を取得・開発し、工場を新設した。1977年に新工場が完成してからは生産設備も拡大し、小型のトランスから大型のトランスまで顧客の要望に合わせ様々なトランスの製造が可能となった。

さらには、建設省(現在の国土交通省)向けの耐雷トランスや日本原子力研究開発機構向けのノイズ対策トランスなどの特殊トランスも手掛けるようになり、業容が拡大していった。

● 様々な困難を乗り越える

今までどんなご苦労がありましたか。

鶴田社長 国際規格を取るのが大変であった。EUでは、単一市場を実現するために安全基準が統一され、一定の水準を満たした製品のみ流通を可能とするCEマーキング制度が開始された。当社のトランスは海外向けの産業機械、工作機械などの部品にも使われていたため、トランスの輸入先企業からCEマーキングに適合したトランスの製造依頼がきた。CEマーキングの認証取得方法がよく理解できずに難航した。しかし、調査を進めていくうちに、日本にあるTUV Rheinland(ドイツに本社を置くグローバルに技術サービスを提供する世界有数の第三者機関)で認証を取得できることが分り、試行錯誤の末なんとかCEマーキングを表示できる製品を完成させることができた。1996年のことだった。

その後、米国の検査機関が定めた機能・安全性の規格基準を満たすULマーク認定も取得した。

本社工場

©FCGS (H23.7.7) | 印刷用紙 | 111 | 印刷
V2.0 | 印刷用紙 | 111 | 印刷用紙 | 111 | 印刷
印刷用紙 | 111 | 印刷用紙 | 111 | 印刷

印刷用紙 | 111 | 印刷用紙 | 111 | 印刷
印刷用紙 | 111 | 印刷用紙 | 111 | 印刷
印刷用紙 | 111 | 印刷用紙 | 111 | 印刷

印刷用紙 | 111 | 印刷用紙 | 111 | 印刷
印刷用紙 | 111 | 印刷用紙 | 111 | 印刷
印刷用紙 | 111 | 印刷用紙 | 111 | 印刷